

◆ 同志社大学 赤ちゃん学研究センター、大学院心理学研究科教授

呉 東進 (ごう とうしん)

○ 略歴：

京都大学医学部卒。京都大学医学部小児科助手、米国ペンシルベニア大学医学部神経学フェロー、東京女子医科大学准教授を経て、現在は同志社大学赤ちゃん学研究センター教授。神経筋疾患や発達障害の診療に携わる一方、赤ちゃんの発達と音楽の関係、それらと障害児の行動発達の相互関係を研究している。

研究知見を活かした乳幼児の音楽遊び、障害児の療育、子どもの社会性を育む音楽活動なども行っている。小児科学会・小児神経学会・てんかん学会の各専門医、日本音楽医療研究会・日本赤ちゃん学会の各事務局長。著書に「赤ちゃんは何を聞いているの？ 音楽と聴覚からみた乳幼児の発達」(北大路書房)、訳書に「未熟児の音楽療法」(メディカ出版)など。

○ 講演題目： 赤ちゃんは何を聞いているの？

～音楽と聴覚からみた乳幼児の発達～

○ 講演概要： あるCMソングが聞こえてくると赤ちゃんが泣きやむというので、数年前から大変な話題になっています。CDになって発売されたり、携帯電話の着メロに使われたりして、実際に赤ちゃんがぐずって困ったときに使われているようです。重宝しているお母さんもいるそうです。どうして赤ちゃんが、この「ピアノ売ってちょ～だい」というCMソングを聞いて泣きやむのでしょうか。この謎に迫りながら、赤ちゃんと言や音楽のかかわりを、医学、発達心理学、脳科学、霊長類学などの幅広い分野の新しい研究成果を踏まえてお話しします。

人が生まれながらに持っている能力は、人の最も基本的な機能です。赤ちゃんや子どもだけでなく、障害者や高齢者など、全ての人に共通の礎石となるものです。その意味で、赤ちゃんと言の関係を知ることは、単に赤ちゃんや子どもとかかわるときのヒントになるだけでなく、全ての年齢の人とのコミュニケーションに役立つことと思います。